

経営比較分析表（平成28年度決算）

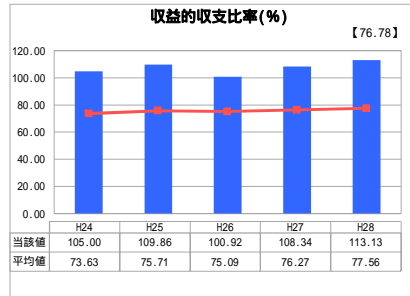
佐賀県 太良町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	52.31	3,010	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,148	74.30	123.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,757	16.76	283.83

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



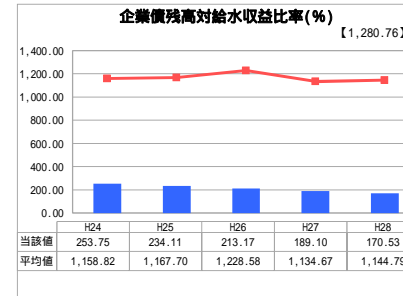
「単年度の収支」



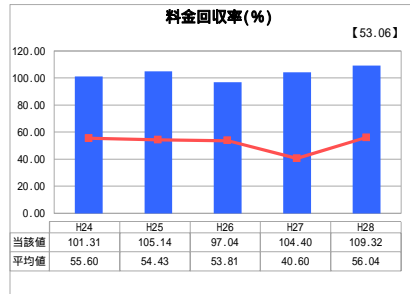
「累積欠損」



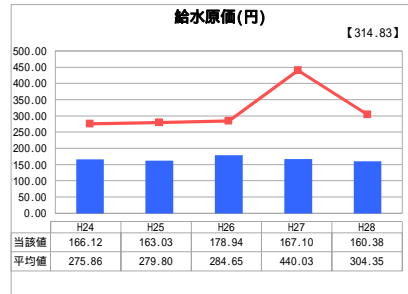
「支払能力」



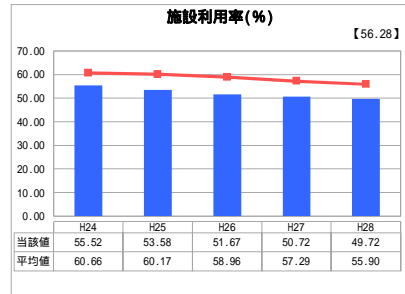
「債務残高」



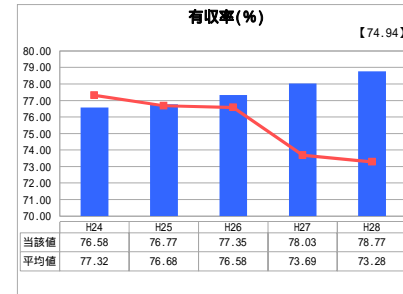
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

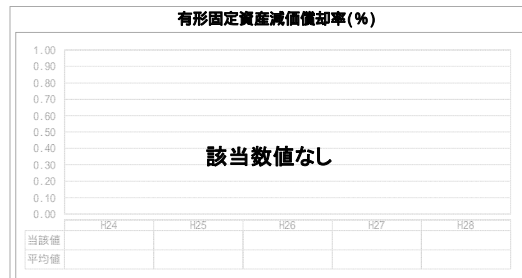


「施設の効率性」

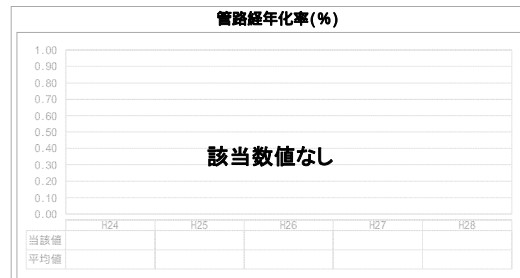


「供給した配水量の効率性」

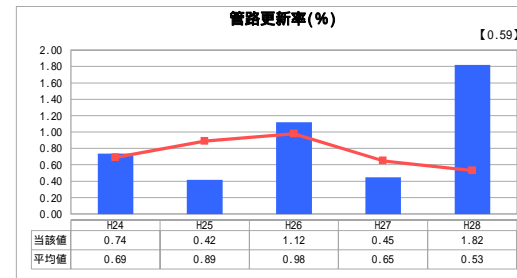
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率については、100%を超えており一般会計からの繰入により健全経営が図られている状況ではあるが、更なる経費削減等を強化し、より安定的な健全経営に努める必要がある。

企業債残高対給水収益比率については、類似団体と比較しても良好であるが、今後老朽管の更新を迎えるに当たり更なる検討が必要と考える。

料金回収率については、100%を超えているものの今後、給水人口の減少に伴う収益の減少が考えられ、水道料金の改定についての検討が必要と考える。

給水原価については、主に地下水を取水とし大規模な施設を必要としないため、類似団体と比較しても低い数値である。

施設利用率については、給水人口の減少に伴う配水量の減少が要因の一つと考える。

有収率については、日々の維持管理や漏水調査業務委託等による早期修繕及び老朽管の更新で、有収率の向上に努めており、類似団体と比較しても高い数値が保たれている状況である。

2. 老朽化の状況について

水道施設については、これから多くの施設が更新時期を迎える。今後、施設の更新計画を整備し計画的に整備を進めていく必要があると考える。

平成26年度より重点的に有収率の低い地区の管路更新を行っており、平成27年度については橋梁部の管路架け替え等もあり更新率も低い値であったが、平成28年度は工事費の高む箇所もなく更新率の増加が図れた。

全体総括

現状では、一般会計からの繰入金により経営の健全化が図られてはいるが、今後施設の更新に伴い財源確保が求められるなか、給水人口の減少は給水収益の減少に直結する問題であり、水道料金改定の検討に加え更なる経営の健全化・効率化が重視されると考える。